

星田の川と桜並木

〔傍示川堤・地獄谷川堤・妙見川堤〕
〔天野川堤・中川堤〕

—— 調査 平成 23 年 3 月～4 月 ——



交野市古文化同好会 堀江 哲夫

星田の川と桜並木 目次

- 1 星田の川
- 2 調査対象 5川の流域
- 3 調査対象 5川の明治以前の絵図・文献での名称
- 4 星田の川と桜並木の全体図
- 5 星田の川と桜並木の詳細図 (部分)
 - (1) 傍示川 (2-2 図)
 - (2) 地獄谷川 (2-1 図)
 - (3) 妙見川 (6-3 図)
 - (4) 天野川 (2-2 図)
 - (5) 中川 (3-1 図)
- 6 星田の河川別「桜」の植栽数一覧 (2011.4 現在)
- 7 「星田の桜の回廊」めぐり (桜並木の散策コース)
- 8 古文献・古絵図に見る交野・星田の桜
 - (1) 新古今和歌集
 - (2) 弘安百首
 - (3) 太平記の道行
 - (4) 謡曲 籠祇王
 - (5) 景勝 四天王院 障子和歌
 - (6) 桂園 - 枝捨遺
 - (7) 河内鑑名所記
 - (8) 南遊記行
 - (9) 花供養 津更編
 - (10) 河内名所回絵
 - (11) 花譜
 - (12) 松花集
 - (13) 星田村大絵図 (天保11年の安政5年)
 - (14) 星田名所記
 - (15) 湯泉下星田村不分の6図
- 9 妙見川堤への「桜」の植栽記録
- 10 妙見川堤の桜の満開日誌
- 11 傍示川堤の桜の開花日誌

1. 星田の川

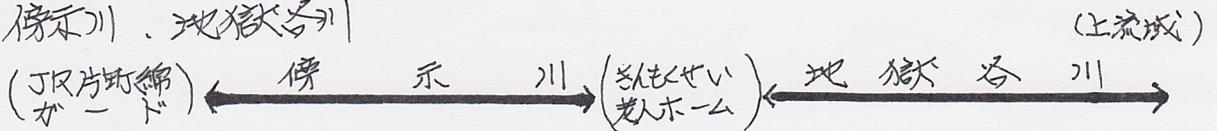
星田の川で、古絵図・古文書（明治時代以前）に、名称が明記されているのは、19川である。その内、現在でも川の様を保っているのは、12川である。

平成23年には、星田村と松浜村の境界であった「ついで川」も、天野川への合流点が暗渠化され、姿を消すこととなった。なお、昭和時代以後の絵図・古文書には、新たに4川の名称が明記されている（古絵図には、川筋は描かれていた）。

星田の川を水系別に見ると、淀川水系（天野川、妙見川、中川等）と寝屋川水系（傍系川、地獄谷川、打上川等）に二分される。

2. 調査対象5川の流域

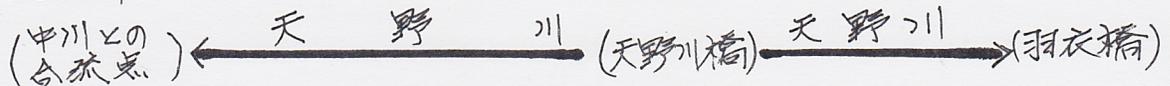
(1) 傍系川、地獄谷川



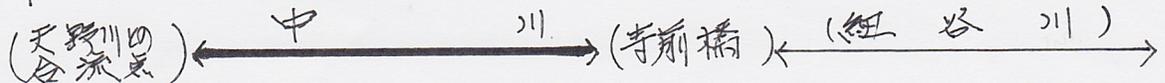
(2) 妙見川



(3) 天野川



(4) 中川



3. 調査対象5川の明治以前の絵図・古文書での名称

(1) 傍系川 … 傍系川

(2) 地獄谷川 … 地獄谷川

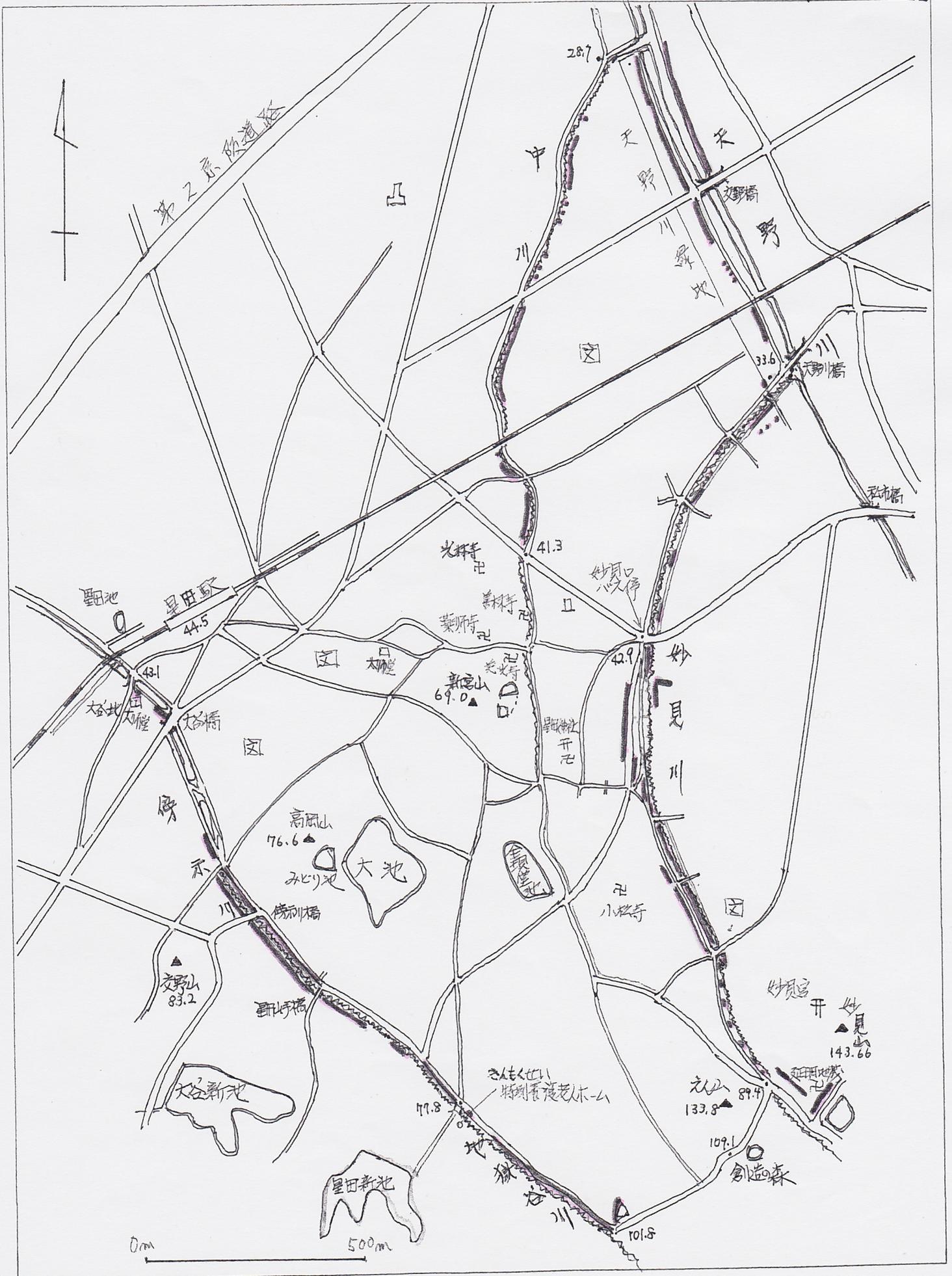
(3) 妙見川 … 東川（江戸時代以前）、妙見川（明治初期より）

(4) 天野川 … 天野川、天ノ川、天の川、天之河、銀河（甘野川との記載は見当たらない）

(5) 中川 … 中川（星田中川との記載は見当たらない）

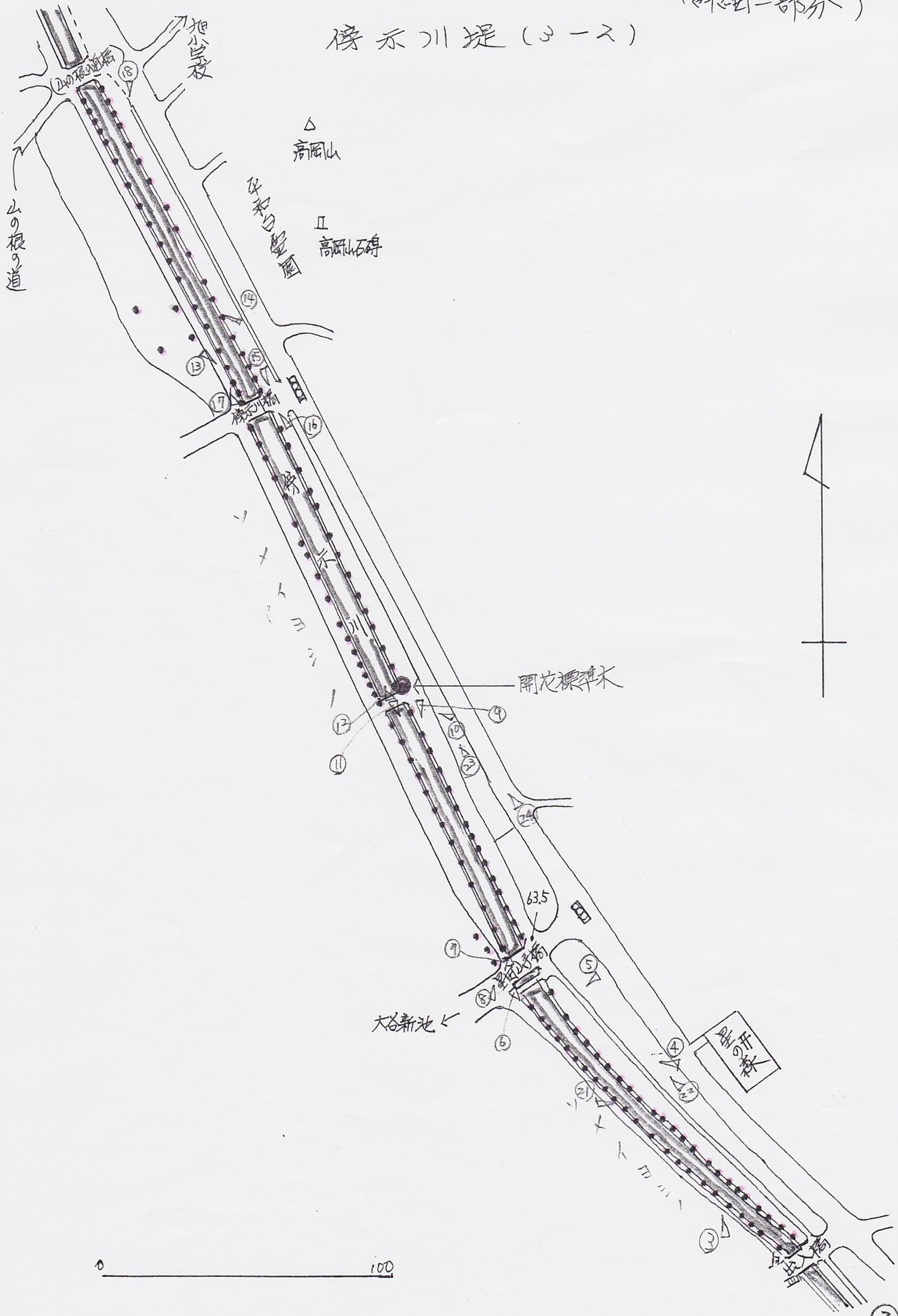
4 星田の川と桜並木の全体図

平成29年々町現在

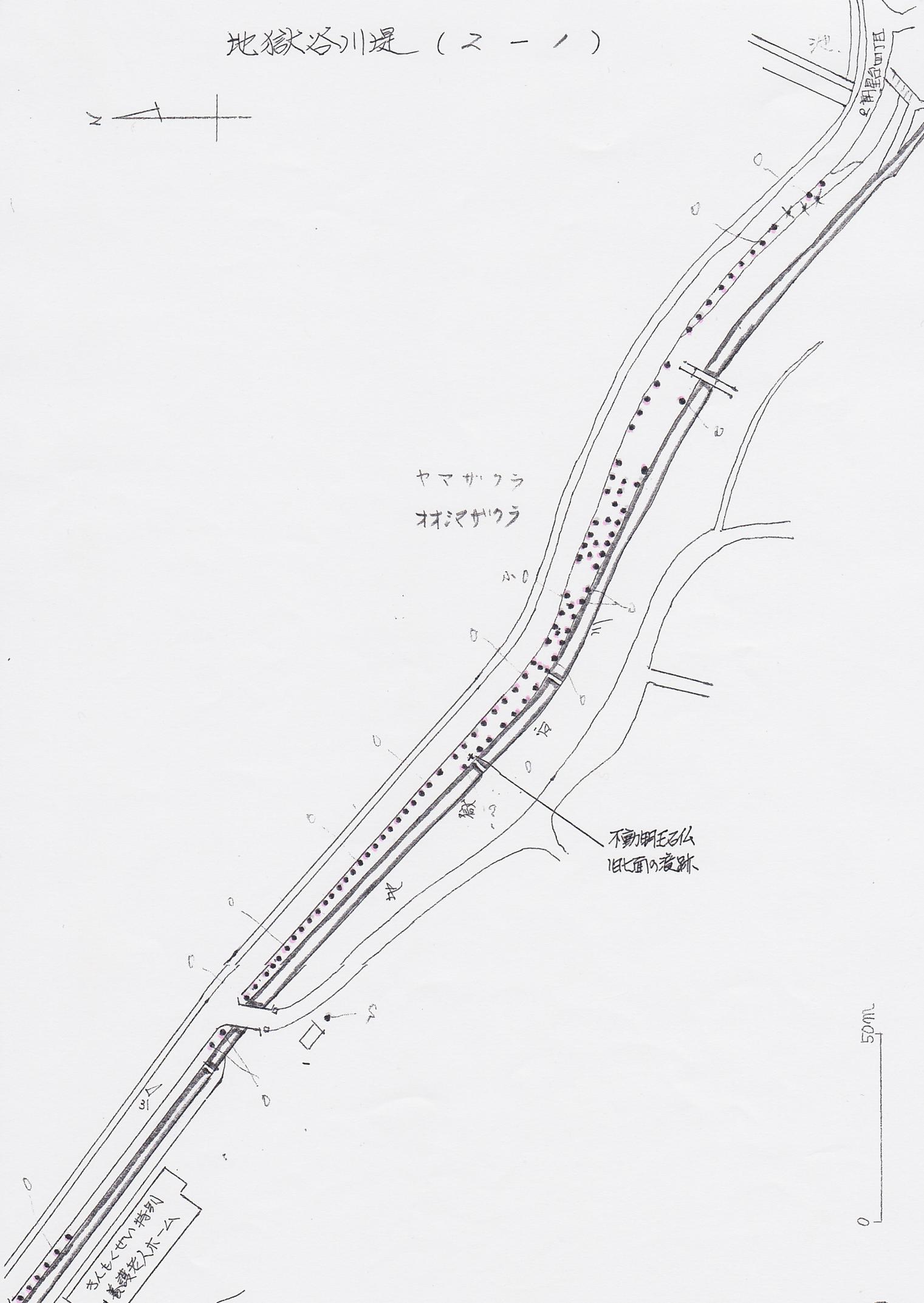


(詳細-部分)

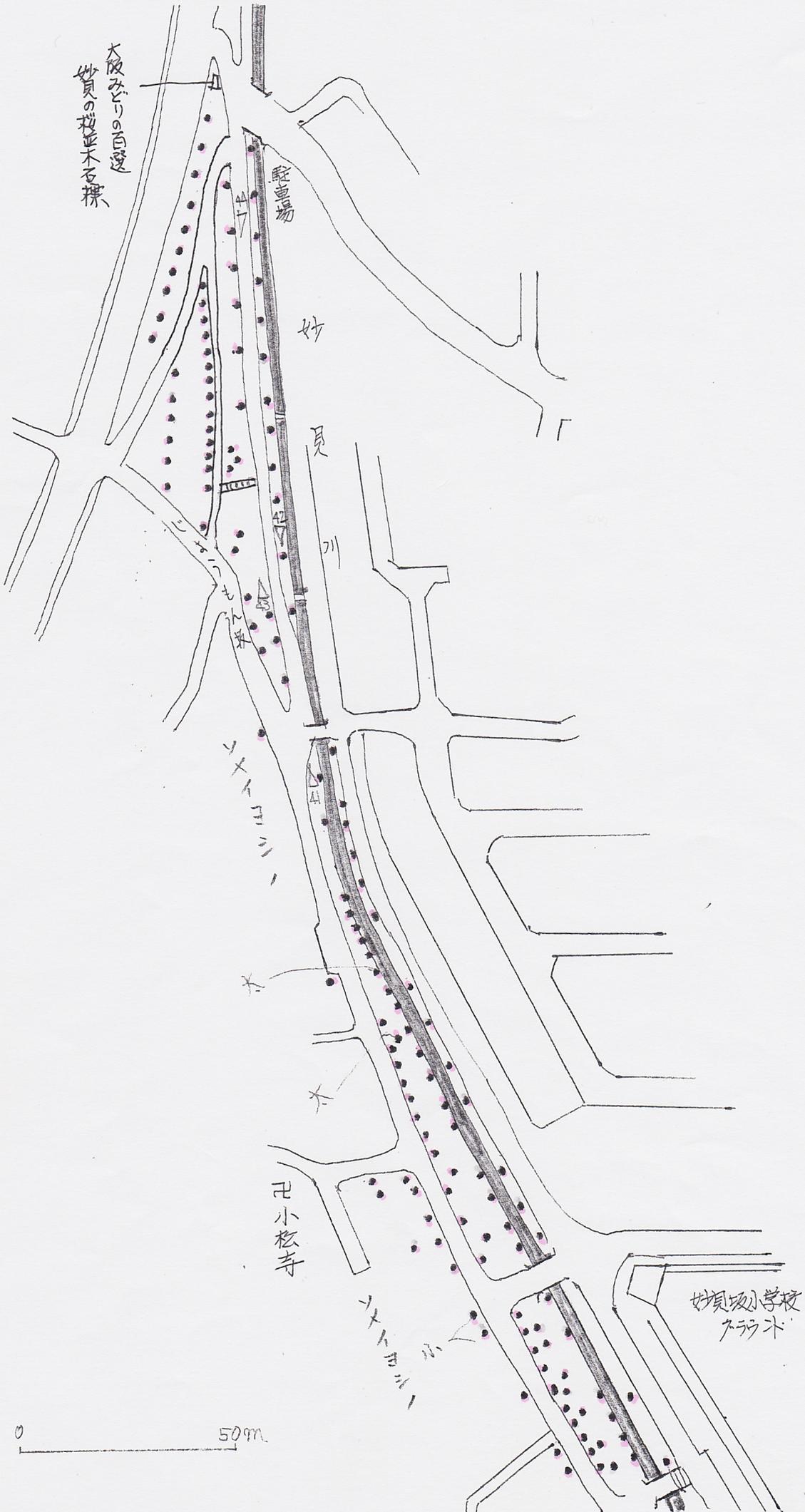
傍系川堤 (3-2)



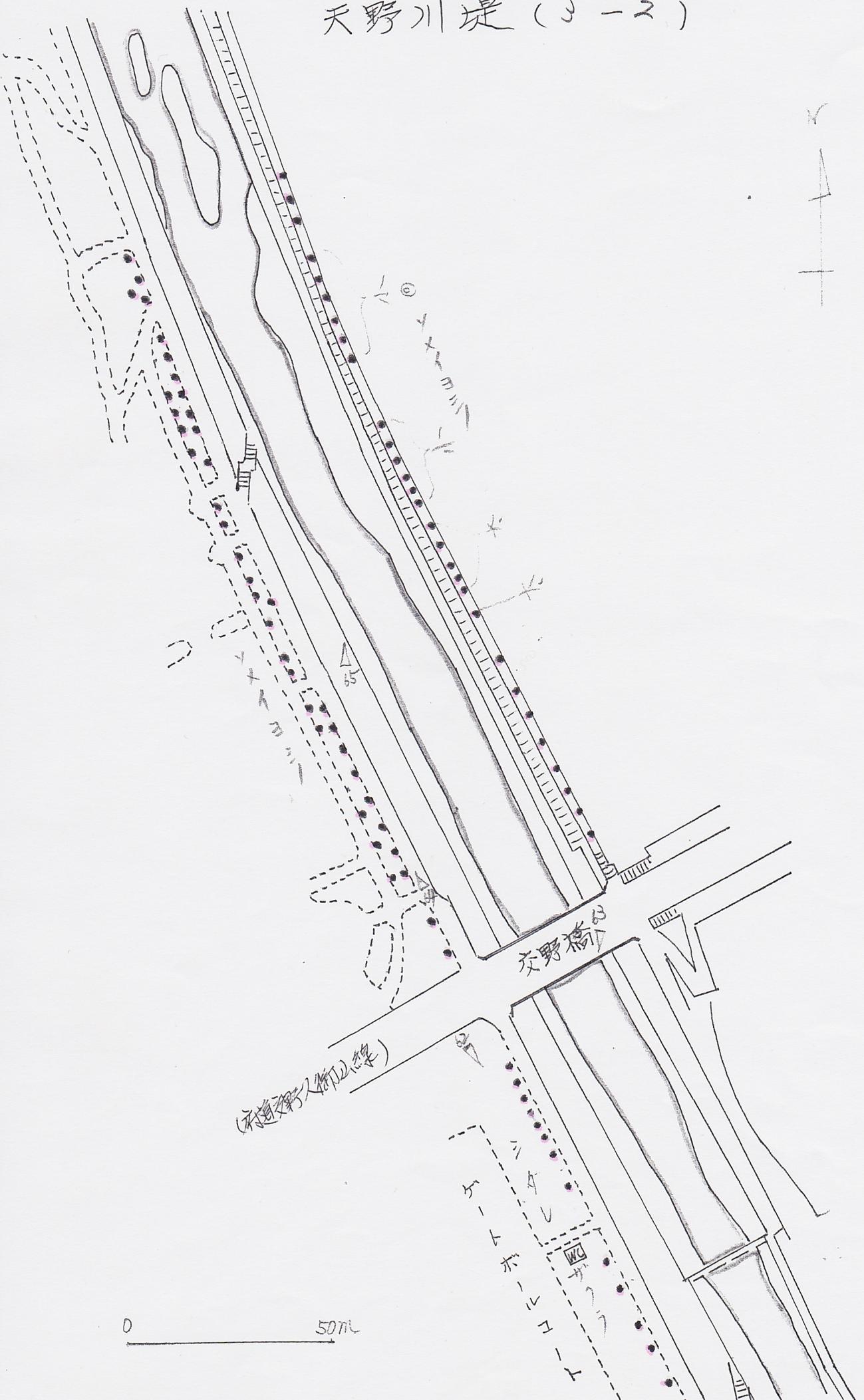
地獄谷川堤 (2-1)



妙見川堤 (6 - 4)



天野川堤 (3-2)



0 50m

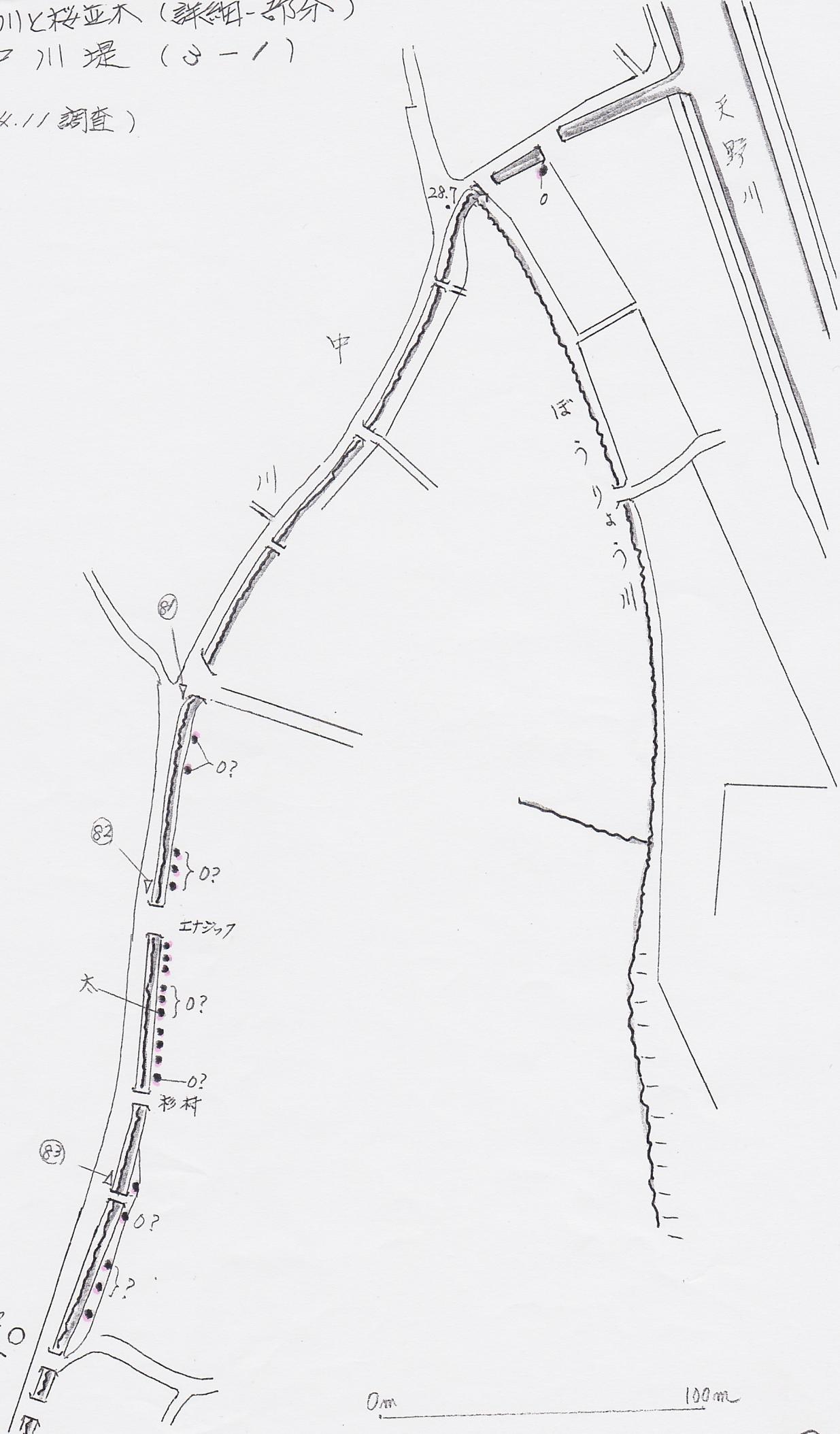
5. 星田の川と桜並木 (詳細-部分)
 中川堤 (3-1)

(H23.4.11調査)



リンゴ

煙突



6. 星田の河川別「桜」の植栽数一覧

(単位:本)

	左岸	右岸	計	主な桜
① 傍 示 川	123	125	248	オオシザクラ ソメイヨシノ
② 地 獄 谷 川	1	102	(21) 124	オオシザクラ ヤマザクラ
① + ②	124	227	(21) 372	
③ 創 造 の 森	-	-	(33) 33	ソメイヨシノ
④ 妙 見 川	277	87	364	ソメイヨシノ
⑤ 天 野 川	119	56	175	ソメイヨシノ シタザクラ
⑥ 中 川	38	66	104	ソメイヨシノ オオシザクラ
合計(①~⑥)	558	436	(54) 1,048	

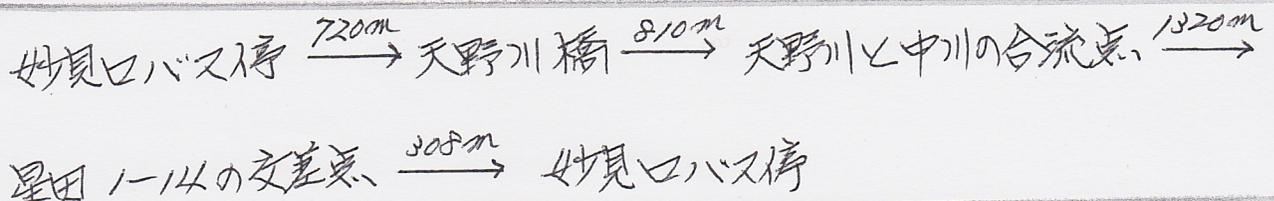
(注)の() 書きは、堤以外の場所に植えられている桜の本数。

③ 桜の植栽数は、2011年4月現在である。

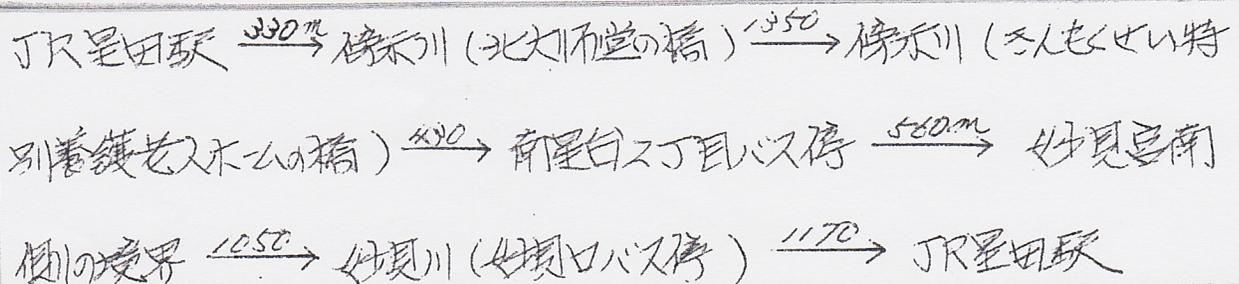
7. 「星田の桜の回廊」めぐり (桜並木の散策コース)

星田5川の堤の桜並木が相当充実しており、さらに部分的に補充植栽を進めれば、近い将来すばらしい桜の回廊ができ、川堤の桜見物、散策に最適な地となるだろう。この桜の回廊は、全長で約7.6km、高低差は80.4mである。部分的な桜見物にもよいが、この回廊を次の3コースに分ければ、それぞれの年齢、体力差によって選択すれば、子供・中高年のオマにも回遊散策で桜見物を楽しめるだろう。

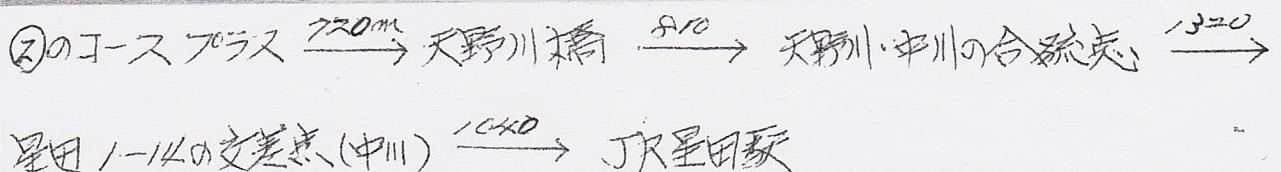
- ① 妙見口バス停から妙見川堤・天野川堤・中川堤の3川コース
コースは全長約3.2kmで高低差は26.2m。主に妙見川の堤は染井吉野、天野川堤はシラカシと染井吉野。桜は333本。



- ② JR星田駅から傍系川堤・地獄谷堤・妙見川堤の3川コース
コースは全長約4.9km (JR星田駅へもどらず妙見口バス停とすると約3.8kmとなる)で、高低差は66.0m。主に傍系川堤は染井吉野、地獄谷川堤は大島桜・山桜、妙見川堤は染井吉野。桜は715本。



- ③ JR星田駅から傍系川堤・地獄谷川堤・妙見川堤・天野川堤の5川コース (妙見口バス停から一周するの也可)
コースは全長約7.6kmで高低差は80.4m。桜は1048本。



(注) この桜の回廊の近くには、星田の多くの名所・旧跡がある。

8. 古文献・古絵図に見る交野・星田の桜

- (1) 新古今和歌集 (建久6年-1196年)
またも見ん交野の御野の桜狩 花の雪ちる春の曙 後成
- (2) 私安百首 (弘安-1278年~1288年)
かたのなる渚の桜い春か 欠えていとひし跡に咲らん 法印定四
- (3) 太平記の道行 (応安-1368年~1374年)
落花の雪にふみよふ 交野の春の桜狩……
- (4) 謡曲 籠祇王 (鎌倉・室町)
歌「散りにし花の山風の、宇渡野の芦の露わけて、旅衣 葉野の雪をたどり
ゆく、交野の御野の桜か、雨は降りさぬ同じくは、ぬるとも陰にやとらん」……
- (5) 景勝四天王院障子和歌 (鎌倉・室町)
散る雪も交野の桜かり花ならなくに濡れませ行く 慈圓
- (6) 桂園一枝拾遺 (江戸)
桜ちる交野のみ野に啼くさきす 去年の吹雪も思ひ出つらん 香川景樹
- (7) 河内鑑名所記 (延宝7年-1679年)
散花をいよいよ見よくほし田哉 常征
- (8) 南遊記行 (元禄2年-1689年) 具原益軒
二月、日益軒は獅子堂寺に参詣し、「凡此山、大石奇石多し、又、糸桜多し。今日幸にして花盃也。」と記述されているが、この後、星田へ寄ったが、星田の桜については一言もふれていない。
- (9) 花供養 蘭更編 (寛政4年-1792年) 一句集
手折らせぬ 人の談やちる桜 河内星田 田尾
- (10) 河内名所図絵 (享和元年-1801年)
○ 交野原 (かたのばら)
葉野(さぬ)、中宮(なかみや)、為鉦(かたはし)等、総名也。延暦年(782年~806年)中、天子ここに遊獵す。因に、私(わたくし)に禽獸を駆(かる)事を禁ず。故に葉野と云。今の村の名とす。一名、御野と云。天子御獵の所なり。或は三野(みの)とも書す

○ 和田寺 (わだし)

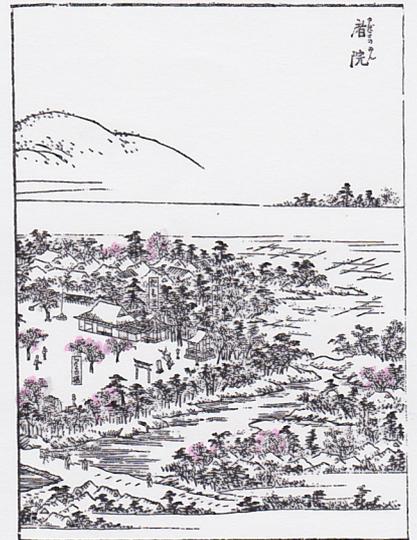
萩野村にあり。医王山仏陀院と号す。〔寺伝〕貞観 (ちゆうくはん) 年 (: 859年~877年) 中、文徳天皇 (: 850年~858年) 第1の皇子、清和天皇 (857年~877年) の御兄 (お兄のかみ)、惟喬 (これたか) 親王、ここに遊獵の時.....

「寺前に御狩の桜あり。初めの木は朽朽して、植継げるとと薄くと記されている。

○ 波瀲院 (なぎさいいん)

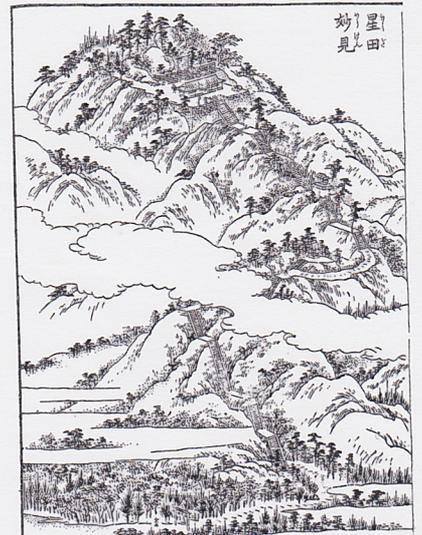
波瀲院は、渚村にあり。むかし、惟喬 (これたか) 親王、遊獵の時、ここに禪堂を築給ふ古跡なり。今寺として、堂前に五本桜あり。故朽して今僅に残るなり。

○ 渚院 (なぎさいいん) の図
弘安百道 (127年) の桜の年歌が記され、(かたのなる 渚の桜 いく春か たえていとひし 跡に咲くらん)。又、多くの桜の絵が描かれている。



○ 星田妙見の図

星田妙見のすばらしい絵が描かれているが、妙見山、妙見河原には桜が描かれていない。



○ むかし、これたかのみこと申すみこおはしましけり。山さきのあなんに水無瀬という所に宮ありけり。毎年さくらの花さかりには其宮へなんおはしましける。

(11) 花譜 (享和3年~文化元年 - 1803年~1804年)

星田の大部分、1000石の領主であった市橋長昭の授。これには五帖にわたり総計252の桜の品種を収めている。この著述の時、長昭は大阪城加番の職にあり、桜を写生した画家桜井雪鮮も幕府の大番同心として、同じく大阪に居た。

(12) 松花集 (文政9年 - 1826年) 古光社中

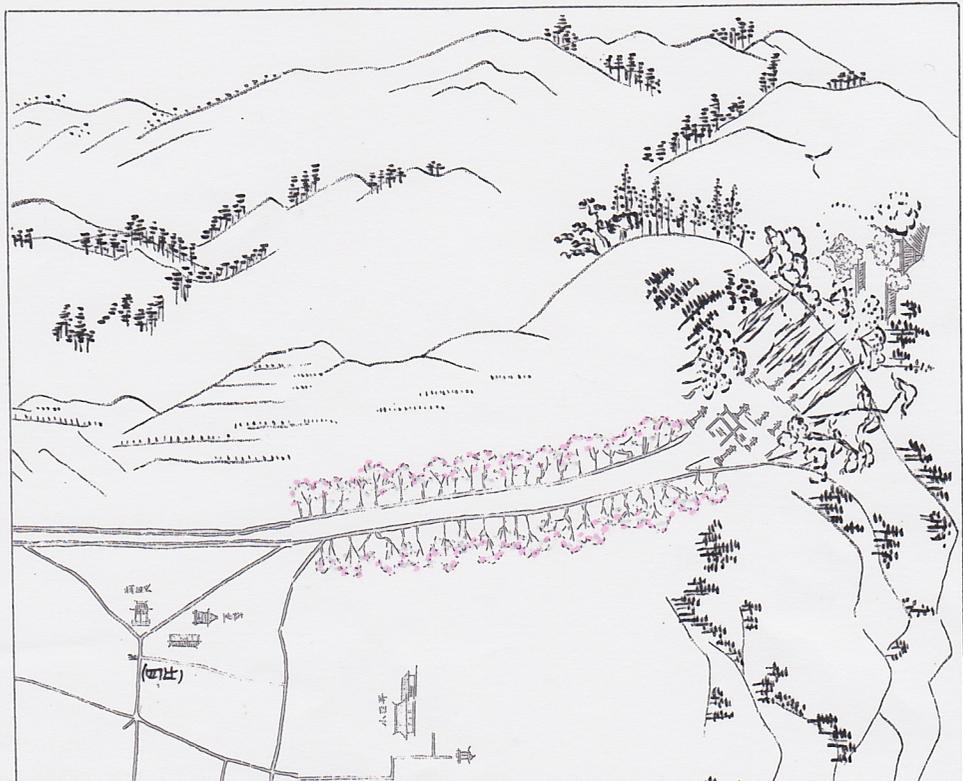
ならひとは しれど桜の ちる日かな

ホシノ 魯 秋

(13) 星田村大絵図 (天保11年~安政5年 - 1840年~1858年) 文政右指定文化財

この絵図で初めて妙見河原堤に桜並木が描かれている。江戸時代に描かれた他の星田村絵図には、桜並木は見当たらない。

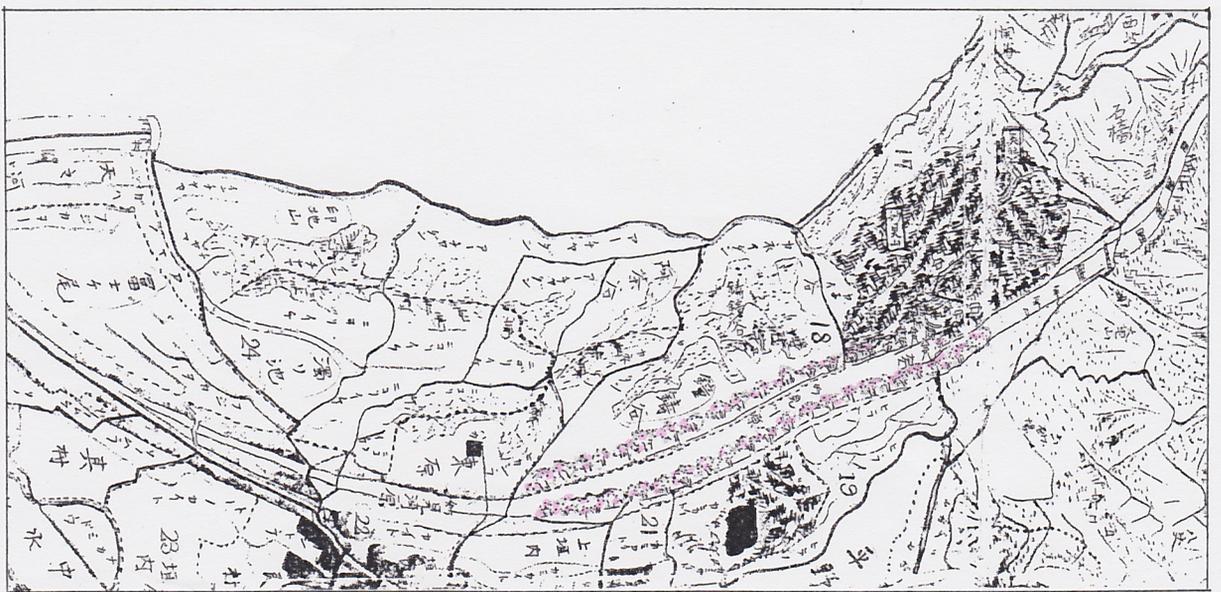
桜並木は妙見宮の入口の鳥居前から、上垣内の中央の四辻 (現在の星田ス丁目の中央の四辻) より東進して、妙見川に突き当たった所から右側に堤を登り切っ(いさうもん坂)た所までの道に植えられており、桜の木は太く描かれ、村人等に集まってきたことかうかがえる。



(14) 星田名所記 (明治元年頃 - 1865年) 春潮亭芦七

- ① 妙見宮と桜の絵図
- ② 妙見河原の桜並木・出店の絵図
- ③ 妙見川堤の大所堂と桜の絵図
- ④ 辻差裏の妙見川堤の絵図
- ⑤ 川原帰熊耕新地芦 瀧道寛図
- ⑥ 地神祠の絵図
- ⑦ 繁栄山慈光寺の絵図
- ⑧ 意定山花岳院(聖母寺)の絵図
- ⑨ 新宮殿鐘の絵図

(15) 湯県下河内国第3大区第3小区九番星田村万分の6図 (明治7年12月 - 1874~1878)



9. 妙見川堤への「桜」の植栽記録

NO. _____

DATE _____

- (1) 天保11年(1840)に星田妙見宮拝殿が再建され、これを機に妙見河原に桜を植え、妙見信仰と相まって遠近より多くの人々が集ったもの(1代目の桜)と考えられる。
- (2) 天保11年(1840)～安政5年(1854)の星田村絵図(交野市指定文化財)に、星田妙見宮入口の鳥居とじょうもん坂(垣戸の田を東進し妙見堤へ登った所)の間の妙見河原の兩岸堤に桜並木が描かれている(絵図で初見)。
- (3) 明治42年(1909)桜並木の多くが枯朽し、西井丑太郎村長の肝煎りで、じょうもん坂の上流に桜400本を植替えた(本数は交野市史による)。(2代目の桜)。花見期には片所線に臨時列車が出た。
- (4) 太平洋戦争の終戦の直後、昭和21年(1946)の早春、つぼみの桜並木の全てが伐採された。(昭和25年4月12日 産経新聞)
- (5) 昭和30年(1955)・31年(1956)に星田村の40の町内会が1本づつ責任をもって桜を植樹し、300本近い若桜を分担して肥料をやり育てた。じょうもん坂と星田妙見宮の鳥居前までの間。(昭和35年4月12日 産経新聞) (3代目の桜)
- (6) 昭和42年(1972)春、妙見川の改修後の約300m(じょうもん坂と妙見ロバス停との間)に、260本の桜を植栽した。(じょうもん坂の下流の植栽では1代目の桜)(昭和47年11月2日 関西新聞)
- (7) 平成13年(2001)3月27日に妙見川原の交野公園線が再開し、この工事により、じょうもん坂の下流の桜並木が伐採されたが、関係先の協力により最小限に留められた。
- (8) 平成23年(2011)4月の調査で、妙見川堤の桜の植栽数は星田妙見宮の南側境界(石標あり)から天野川との合流点までの間に364本(星田妙見宮の南側境界から妙見ロバス停までの間には310本)が確認できた。(調査は交野市文化同好会 堀江哲夫 氏)

(参考)

- ① 昭和13年(1938)の『上方』という雑誌に、当時の大阪村下の桜の名所として十数か所があり、星田妙見川原もその1つにあげられていた。
- ② 昭和57年(1982)に「妙見の観光」として交野八景に選定された。
- ③ 平成元年(1989)4月12日に「妙見の桜並木」として大阪みどりの百選に発表され、「大阪みどりの百選 妙見の桜並木」として石標が建てられた。
- ④ 平成5年(1993)に新古今和歌期の代表歌人の一人である、河内守藤原秀能の歌碑が交野村により小松神社参道入口に建てられた。
- ⑤ ⁽¹⁹⁰⁹⁾ 妙見川原の2代目として、明治42年に西井丑太郎村長の耳打ちで染井吉野が植栽(約400本)され、年々有名になり、花見時には、片町線に花見の臨時列車が出て、大変にぎわったと記している。
- ⑥ 『日本産業経済新聞』昭和35年(1960年)4月12日
 戦前は染井吉野、ほたん桜をまじえて約100本が妙見川原にずらりとならんでいた。京都御室の桜に似て、背が低くて枝がよい。背丈ぐらゐの高さに花が咲きそめい。花見サクラとしては一級品だった。地えでは「わたしの交野の妙見サクラ、ハナは低くても人は好く」とうたい、フーズンになると、京大阪から1日1百人近い花見客が詰めかけ、茶屋も出てにぎわった。
- ⑦ 妙見川原の3代目の桜として、太平洋戦争後の昭和30.31年(1955.56年)村入専の手で植えられたが、交野市の誌によると、京阪バス停妙見口側、妙見川に添って、下手より、彼岸桜20本、染井吉野192本、妙見山入口付近に、交野桜と言われている山桜30本、その他佐野桜11本、江戸彼岸桜、糸桜、右近桜、八重桜等約260本が750mわたり、下手より順次吹き始めるように植られている。

10. 妙貞川堤の桜の満開日 (染井吉野)

NO. _____

DATE _____

	満開年月日				満開年月日		
	昭和年	月	日		昭和年	月	日
1	35	4	7	27	61	4	10
2	36		7	28	62		記録無し
3	37		14	29	63		14
4	38		10	30	元		2
5	39		9	31	2	3	30
6	40		18	32	3	4	7
7	41		5	33	4		4
8	42		8	34	5		11
9	43		7	35	6		7
10	44		13	36	7		9
11	45		16	37	8		13
12	46		5	38	9		2
13	47		6	39	10	3	31
14	48		6	40	11	4	2
15	49		11	41	12		10
16	50		10	42	13		5
17	51		6	43	14	3	29
18	52		3	44	15	4	7
19	53		12	45	16		2
20	54		8	46	17		9
21	55		8	47	18		8
22	56		7	48	19		7
23	57		1	49	20		4
24	58		8	50	21		7
25	59		15	51	22		4
26	60		9	52	23		10

- 1番早く満開に5000年 平成14年3月29日
- 1番おそく満開に5000年 昭和40年4月18日
- 平均の満開日 4月7.4日
- 10年間ごとの平均満開日
 - 1 ~ 10 4月9.8日
 - 11 ~ 20 8.3日
 - 21 ~ 30 8.2日
 - 31 ~ 40 5.2日
 - 41 ~ 50 5.6日
 (平成に入って満開日が早くなっている)

(注) 散る直前までの何日かは満開であるが、完全に開花したと思われる2.3日のうち満開日を決定した。

[この満開日の調査は 和又田薫氏による]

11. 傍系川堤の桜の標準木 (染井吉野) の開花日 (スーパ輪が開いた日)

	開花年月日	
	昭和年	月 日
1	21	3 21
2	22	21
3	23	31

標準木の設定理由

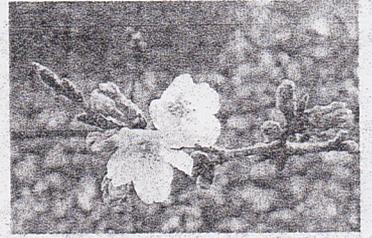
- ・ 傍系川堤には染井吉野が一番多く植栽されている。
- ・ 全国的に染井吉野が標準木で、他の地域と比較できる。
- ・ 堤のほぼ中央にあり、道路に直接接しており生育が良い。
- ・ 中位の太さで、樹心の間が広く健康な樹を望んだ。

[この開花日の調査は 堀江哲夫氏による]

ソメイヨシノにできた「こぶ」。大きくなれば枯れることもある
—日本花の会提供

樹齢60年 ソメイヨシノ

16日に開花した高知市の桜
—近藤諭撮影



8割「倒木の恐れ」

日本の春を彩るソメイヨシノ。だが、無理な植樹や粗末な扱い、地球温暖化で危機が忍び寄る。これからも花見を楽しむことができるのだろうか。【江口一

5005本のソメイヨシノが並ぶ横浜市南区の大岡川プロムナード。今年、倒木の危険がある8本を住民募金で初めて植え替えた。第二次世界大戦後に整備された並木だが近年、枝が枯れたり、キノコが生えて朽ちるものが多い。全体の半数が治療や植え替えが必要だった。

富山市や埼玉県で調査

9本を調べ、樹齢60年以上の約8割で「倒木の恐れあり」と診断した。

「最近、診断依頼が増えている」と話すのは、緑化事業会社「東邦レオ」（大阪市中央区）の樹木医、永石憲道さんだ。車に接触されたり、根が路面を持ち上げて傷付く事例が目立っているという。傷が付くとそこから幹を腐らせる菌が入る。また、早く並木らしくしたいと、10本は必要な間



傷から菌／脅威の「こぶ」／温暖化

隔を狭めて植樹してしまうケースも多い。十分な余裕がないと、枝が伸びず枯れてしまう。

新たな脅威もある。小指から拳ぐらいの大きさの「こぶ」で、90年代末に見つかった。類似のこぶは、70年代にヤマザクラで報告され、こぶが大きくなると枯れるため、ソメイヨシノへの影響が懸念される。日本花の会が07年からホームページで「枝にこぶができていませんか」と情報提供を呼びかけている。昨年3月までに36件の発見情報が寄せられた。同会の西山正大研究員は「形成の原因は不明だが、監視が必要」と話す。また、開花には最高気温10度以下の寒気に2カ月間さらされる必要があると、九州大の研究チームは「今後、温暖化で咲かない地域が出現する」とみる。

一方、ソメイヨシノが起こす生態系の危機もある。向井謙・岐阜大教授(森林遺伝学)は静岡、岐阜両県内でソメイヨシノを中心に半径100メートルに分布するヤマザクラなど216個の種子を調べたところ、29個でソメイヨシノ遺伝子が入り込んでいるのを検出した。ソメイヨシノは、花が咲かなくなるテングス病にかかりやすく、野生桜への感染拡大が懸念されている。向井教授は「遺伝子交雑を防ぐ植樹ガイドラインを作りたい」と話す。江戸時代末期に園芸品種として作られ、戦後復興の象徴となったソメイヨシノ。ちまたで言われる「寿命60年」を迎えた。一方で弘前公園(青森県弘前市)などには樹齢120年以上の樹木も存在する。

森林総合研究所の勝木俊雄主任研究員は「寿命60年説は、科学的な根拠がない俗説だ。良好な環境と人が適度な手入れをすれば、いつまでも元気なはずだ」と強調する。危機の脱出は私たちの行動にかかるとみる。

ソメイヨシノ

ソメイヨシノはヤマザクラとエドヒガサクラとの雑種といわれている。江戸時代末期に江戸染井村(現東京都豊島区)で吉野桜の名で売り出された。その後明治33年(1900年)に出版された雑誌の論文で染井吉野という和名がはじめてつけられた。